

首里城復興基金活用に関する方針について

※赤字は実施に向けて国と協議済



首里城赤瓦の沖縄県工業技術センターでの取り組み



●原土(クチャ・赤土)の確認:瓦製造に適している土質が想定される公共事業等でサンプル採取



※前回復元に用いた原土である粘性土が現在は無いため

●テストピースでの焼成試験の実施:原料配合(シャモットを含む)や焼成温度の変化による色味や収縮率等の確認 【3cm角のピース】

※「シャモット」とは、首里城正殿の破損瓦を粉体化したもの



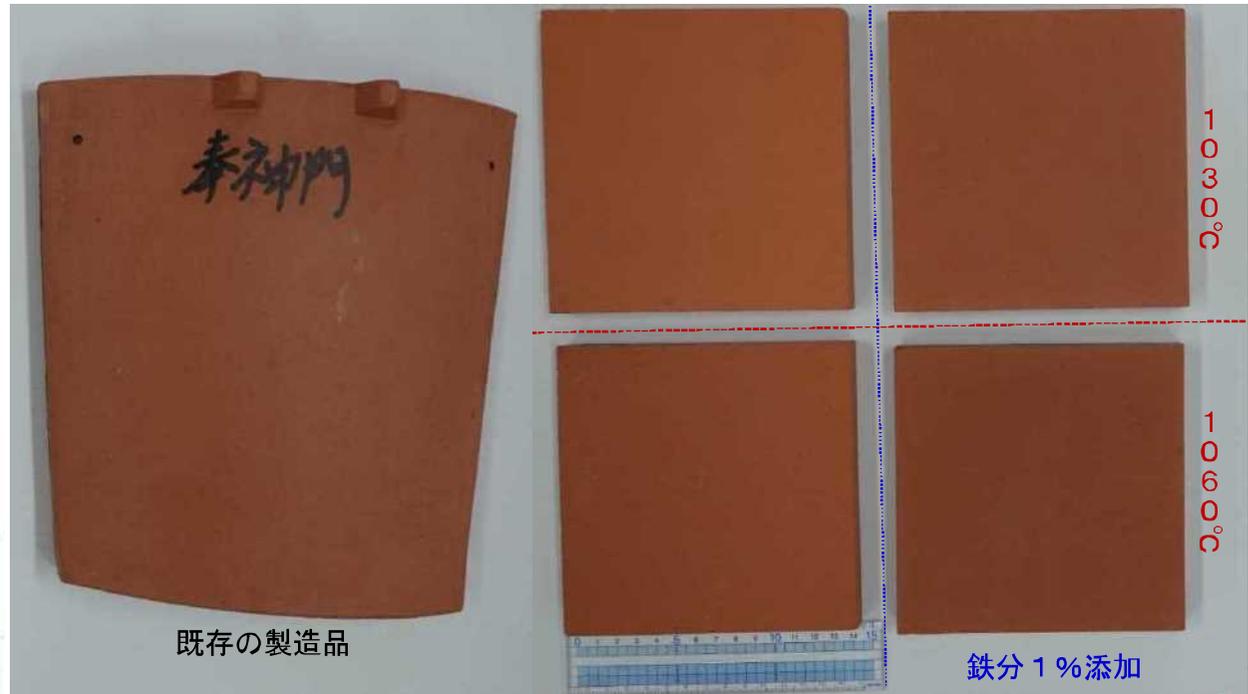
1030°C

クチャ:赤土	シャモット配合		
	0%	5%	10%
クチャ 2割目配合 3割	8:2		
	5割		
	7割		
7:3	5割		
	7割		
	9割		
6:4	5割		
	7割		
	9割		

1060°C

クチャ:赤土	シャモット配合		
	0%	5%	10%
クチャ 2割目配合 3割	8:2		
	5割		
	7割		
7:3	5割		
	7割		
	9割		
6:4	5割		
	7割		
	9割		

【15cm角のピース】



既存の製造品

鉄分1%添加

首里城扁額製作検討委員会（仮称）

【今回の製作体制（案）】

■検討委員会

- ・有識者・専門家5名（歴史・漆芸など）

しつげい

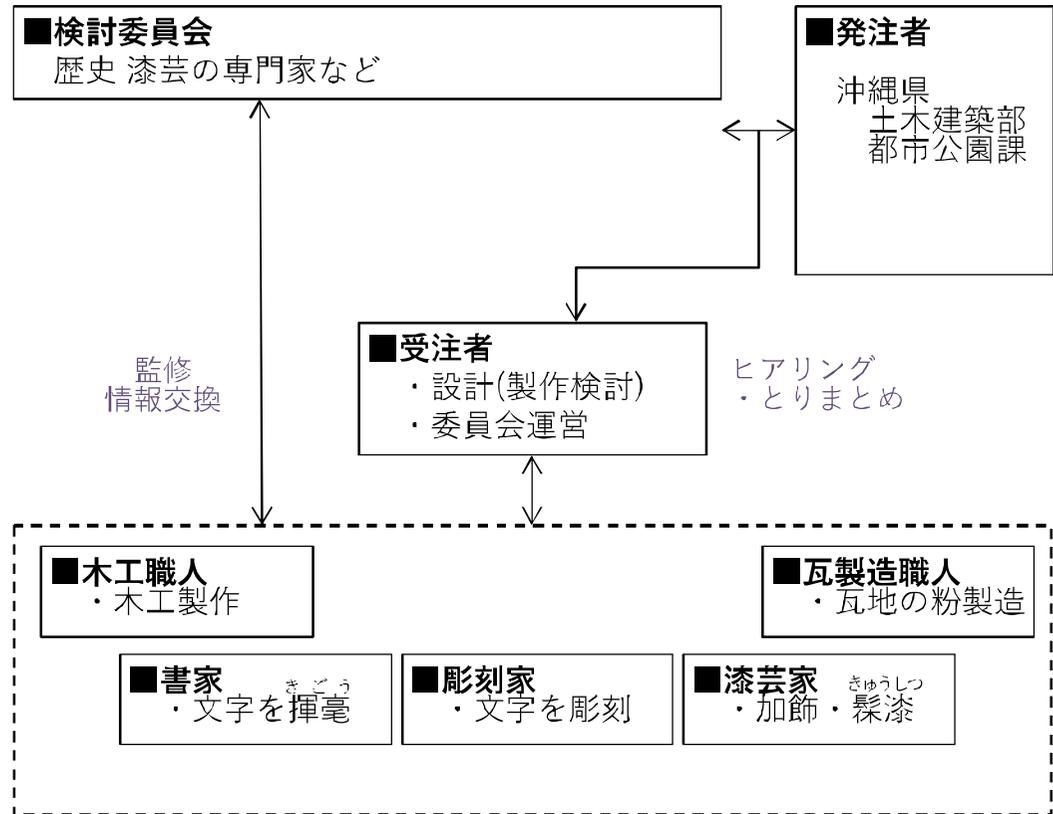
■設計業務（予定）

- ・業務期間：令和3年6月頃～令和4年3月

■製作（予定）

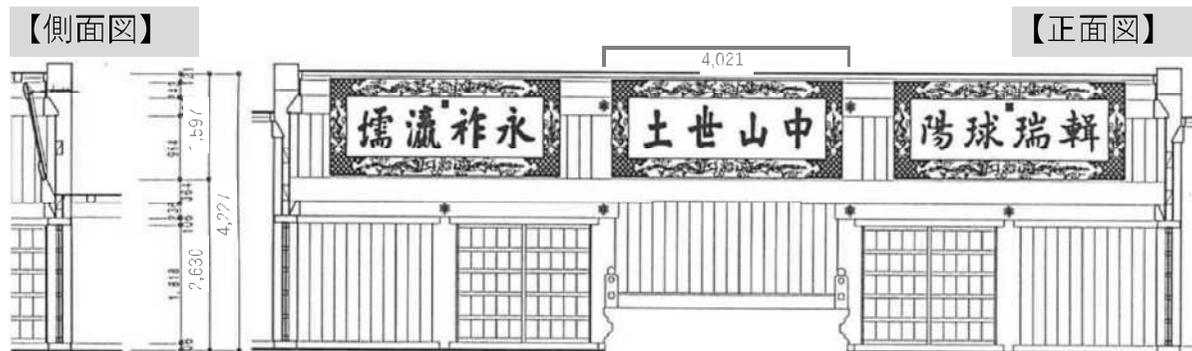
うきすか

- ・扁額の製作と正殿御差床の装飾は職人が重複する可能性があるため、正殿御差床の装飾工事までに扁額の完成を目指す。
- ・製作期間：令和4年～令和6年



< 主な検討事項 >

- ・往時の技術の活用：前回復元後に判明した新規知見や「手わざ：琉球王国文化遺産集積・再興事業」等で確認された往時の道具や技法の反映
- ・職人確保：正殿の彫刻や彩色の作業時期との調整
- ・県産材の活用：県産材で扁額に適した材質、手配可能な大きさの検討



首里城火災に係る再発防止検討委員会



- 令和2年3月18日 第1回委員会
- 令和2年4月6日 第2回委員会
- 4月～7月 ヒアリング等
- 令和2年8月21日 第3回委員会
- 令和2年9月11日 中間報告
- 令和2年10月24日 先進事例調査
- 令和2年11月25日 第4回委員会
- 令和3年1月19日 第5回委員会
- 令和3年3月17日 第6回委員会
- 令和3年3月30日 最終報告



令和2年9月11日
中間報告



令和2年10月24日
先進事例調査(姫路城)



令和2年10月25日
先進事例調査(妙心寺)



首里城火災に係る再発防止策（基本的な方向性）

- 令和3年3月に「首里城火災に係る再発防止検討委員会（第三者委員会）」の報告書において、7項目の「再発防止策の基本的な考え方・原理原則」が提言された。
 - 1 防災センター機能の一元化 2 防災・防犯設備の強化 3 自衛消防隊の体制強化
 - 4 消防との連携強化 5 日常の管理業務 6 継続的な改善 7 管理体制のあり方
- これらの提言を踏まえ、首里城公園の管理体制の構築に向けた今後の県の取組方針を示した「首里城火災に係る再発防止策（基本的な方向性）」を策定した。

首里城公園の管理体制の構築



首里城公園の施設の整備状況に応じた管理体制を構築し、継続的な改善を行っていくこととする。

首里城火災に係る再発防止策

基本的な方向性	<p>① 防災センター機能の再編（提言：1,4,6）</p> <p>首里城公園の防災センター機能が公園全体として一体的に機能し、管理運営に必要な情報の共有や消防機関への迅速・正確な情報伝達等ができるよう、国等の関係機関と連携し、防災・防火等に関する設備や体制等の適切な配置を行い、防災センター機能の強化を図る。</p>	具体的な取組※	令和3年度から検討・実施
	<p>② 防災・防火設備等の運用体制の強化（提言：2,3,4,6）</p> <p>実効性のある自衛消防隊の体制を構築することを目指し、国が検討を進める首里城正殿等の設計や県営公園区域内で整備予定の施設の計画等を踏まえ、防災・防火設備等の運用体制の強化を図る。</p>		令和3年度から検討・実施
	<p>③ 管理運営に関する制度の活用方法の見直し（提言：5,6,7）</p> <p>首里城公園に適した管理運営を目指し、首里城公園の管理運営に関する制度の活用方法を見直す。</p>		令和3年度から検討・実施

※有識者を含めた議論の場を設けるとともに、関係機関と連携しながら、「具体的な取組」を検討・実施する。

首里城公園管理体制構築検討委員会（仮称）

<目的>

令和2年度の第三者委員会の報告を踏まえて県が策定した「首里城火災に係る再発防止策（基本的な方向性）」に基づく具体的な取組を進めていくにあたり、有識者等で構成する委員会を設置し、管理体制構築に関する検討を行う。

<検討事項（案）> ※関係機関等と連携し、首里城公園全体で一体的に検討を行う。

- | | | | | |
|---|-----------------------------------|---|------------|------------------------------------|
| 1 | <u>首里城公園の管理体制構築</u> に関する検討 | … | 全体 | <u>再発防止策全体</u> に関する検討 |
| | → R3：首里城公園管理体制構築計画の策定 | | | |
| 2 | <u>防災センター機能の再編</u> に関する検討 | … | ハード | <u>再発防止策①</u> の具体的な検討
(防災・防火設備) |
| | → R3：県営公園区域内の防災センターの整備方針の策定 | | | |
| 3 | <u>防災・防火設備等の運用体制の強化</u> に関する検討 | … | ソフト | <u>再発防止策②</u> の具体的な検討
(防災体制など) |
| | → R3：防災・防火設備等の運用体制に関するルール等の策定 | | | |
| 4 | <u>管理運営に関する制度の活用方法の見直し</u> に関する検討 | … | 仕組み | <u>再発防止策③</u> の具体的な検討 |
| | → R3：管理運営に関する制度の活用方法の見直し（案）の作成 | | | |

<委員会の構成員（案）>

○委員（有識者）

公園計画、消防防災、建築防火、文化財、法律、地域・観光

○協力委員（関係機関等） ※構成の考え方：所有・管理・整備主体 + 消防

国（沖総局、公園事務所）

県（都市公園課、文化財課、防災危機管理課）

那覇市（文化財課、消防局）

首里杜地区整備基本計画検討委員会

〈首里杜構想とは〉

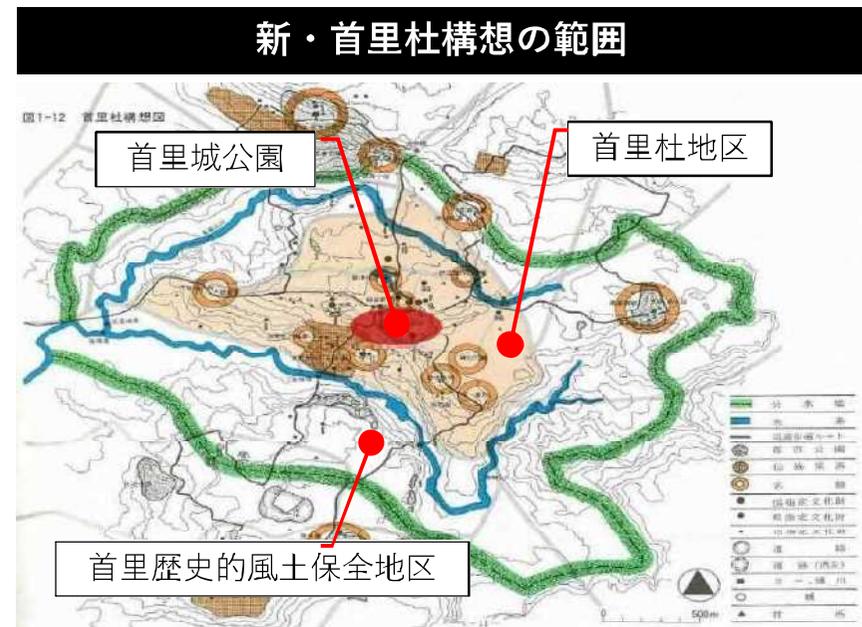
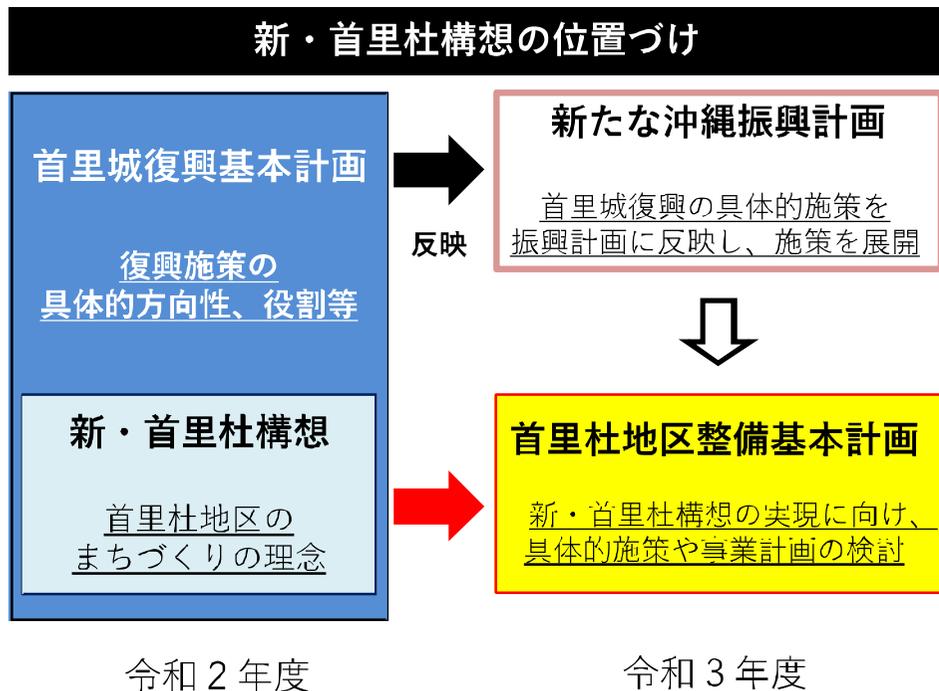
- 昭和59年の「首里杜構想」は琉球大学の西原への移転後の跡地利用として、歴史的な首里城公園の整備や、首里城を中核とする首里杜地区、これを取り巻く首里歴史的風土保全地区と一体となった歴史まちづくりの方向性を示したものであった。

〈背景〉

- 首里城復興に関する有識者懇談会において、中核の国営公園内の施設整備が着実に進んできた中、周辺のまちづくりの進捗が遅れているとの指摘が多く、首里城と周辺の首里地域と一体となった「新・首里杜構想」による歴史まちづくりが首里城復興基本計画に位置付けられた。
- 首里城復興基本計画の計画期間（R4～R13d）の具体的な施策を検討し、関係機関と連携した推進が必要である。

〈検討事項〉

- 主な検討事項は ①交通環境の改善 ②景観まちづくり ③文化遺産等の保存・活用。
- 令和3年度は、国、県、市等の関連計画をとりまとめた「首里杜地区整備基本計画」の策定と、推進体制の構築を行うことを予定している。



中城御殿跡地整備検討委員会（仮称）

〈背景〉

- 首里城火災により美術工芸品等1,510点のうち391点が焼失し、焼失を免れたものについても熱や水による被害を受けるなど、建物だけでなく城郭内で展示収蔵していた美術工芸品等も甚大な被害を受けた。
- 火災後に設置された有識者懇談会などでの、貴重なオリジナルの美術工芸品は城郭外に出すべきとの助言を踏まえ、沖縄県は令和2年12月15日の首里城復興推進本部会議において、オリジナルの美術工芸品については、中城御殿跡で展示収蔵する方針で検討することを確認した。

〈首里城復興基本計画に関する有識者懇談会での主な指摘〉

- 国の城郭内復元計画と連携し、国営・県営公園区域が一体的に利用運営され、魅力向上が図れるよう展示や収蔵庫の城郭外への配置、利用動線や案内解説等の機能向上、歴史・文化の情報発信の強化や周遊観光等の促進が必要。
- 公園の魅力向上や周辺歴史まちづくりの推進のため、拠点として中城御殿跡や円覚寺跡等の文化遺産の計画的な復元が必要。

〈令和3年度業務〉

- 平成22～26年度の検討委員会で策定された「中城御殿跡地整備基本計画」について必要事項の改定を実施。

〈委員会の構成員（案）〉

・委員（有識者）

歴史、都市計画、考古、景観、保存科学、地域

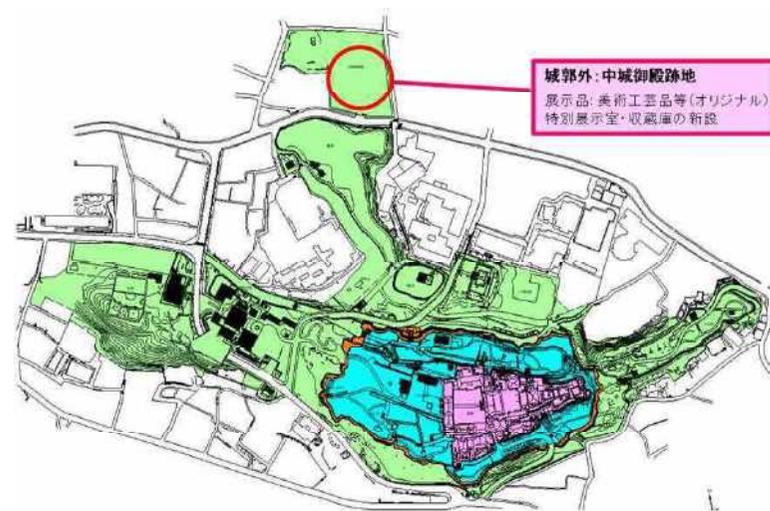
○協力委員（関係機関等）

国（沖総局）

県（都市公園課、文化財課、博物館）

那覇市（都市計画課、文化財課）

指定管理者



中城御殿跡地整備検討委員会（仮称）

①中城御殿の展示計画の見直し(美術工芸品の保存管理)

- 城郭内で扱っていたオリジナルの美術工芸品等について、中城御殿で展示・収蔵する方向で検討を行う。
- 中城御殿の展示計画について、他館からの借用展示も視野に入れた検討を行う。
- 特別展示エリアの導入機能や必要規模等を踏まえ、建物構造や復元レベルの再検討を行う。
- バックヤード機能について、従前の課題も踏まえた検討を行う。
- 管理運営体制については指定管理者制度の活用を想定しており、課題等について検討を行う。

②追加すべき導入機能の検討(修復機能)

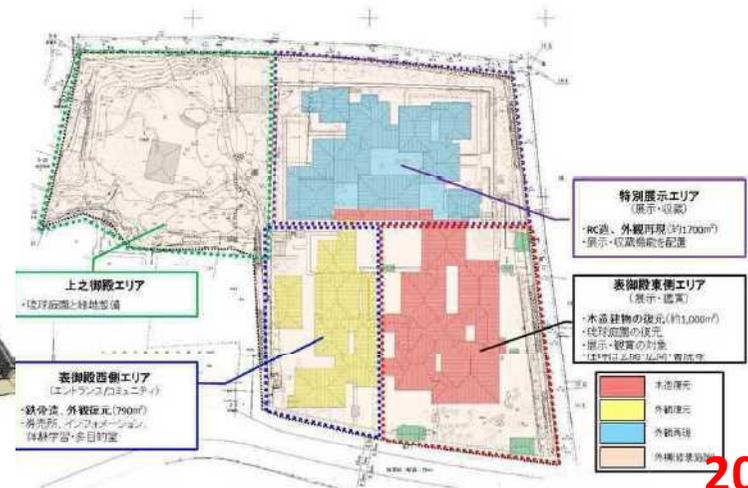
- 中城御殿における修復機能の追加について、必要性やスペースの確保等の課題の検討を行う。

③施設全体の防災・防火対策の強化

- 施設全体の防火対策・延焼対策に関して、国の技術検討委員会や県の首里城火災に係る再発防止検討委員会の提言等を踏まえた検討を行う。

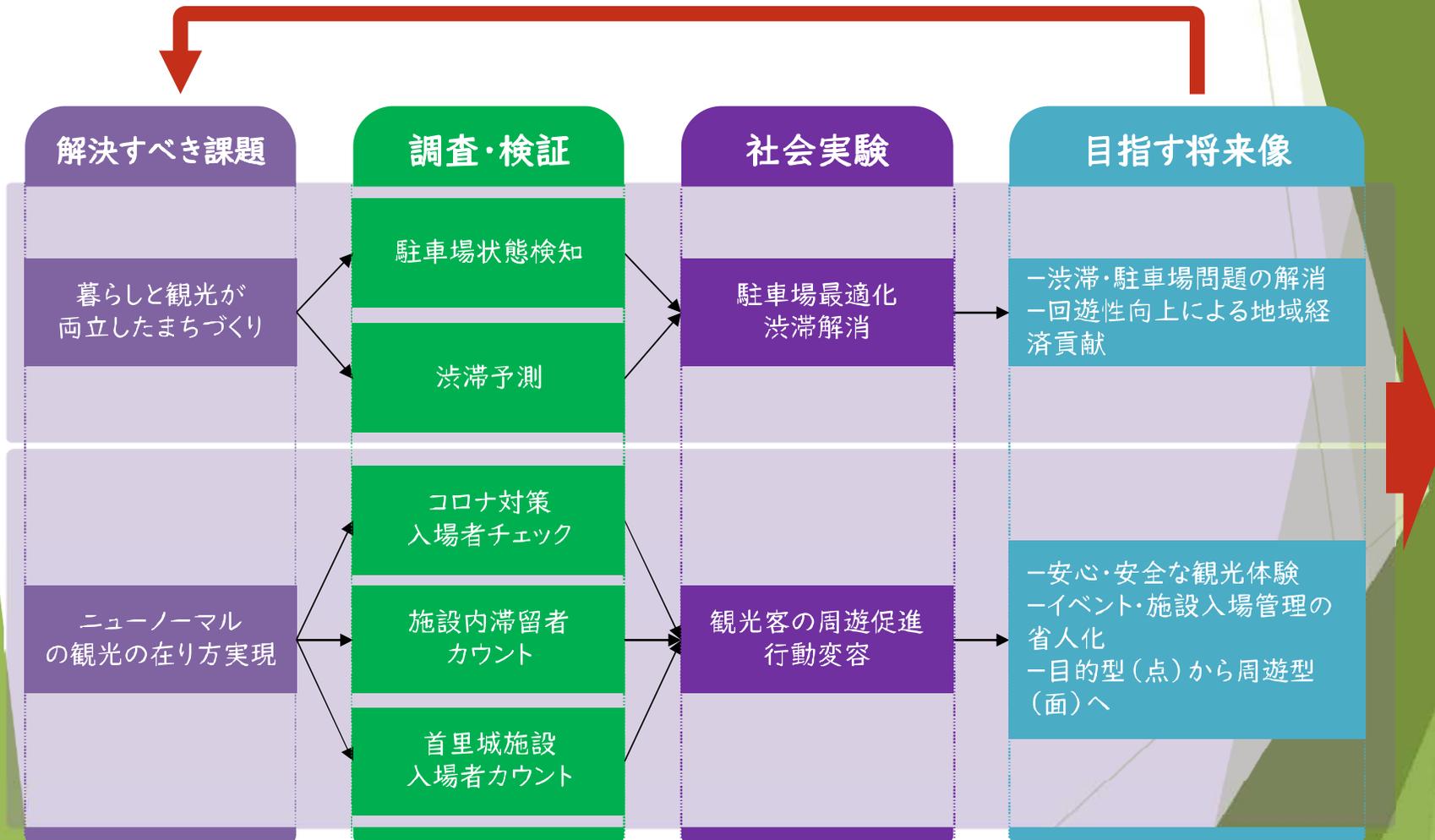
④公園全体の一体利用、魅力向上に資する利用の拡充

- 県営区域の各施設の魅力向上を図ることにより、公園全体の一体利用や首里地域への周遊促進を図る。
- 公園全体及び中城御殿の展示テーマ、利活用等に関する検討を行う。



首里城復興におけるDX実現の進め方イメージ

目指す将来像と解決すべき課題からのバックキャストिंगで
「DX:デジタルトランスフォーメーション」を実現



首里城復興における課題解決の継続的DX推進

※バックキャストिंग:「未来のあるべき姿」(目指す将来像)から逆算して、改善を繰り返して実現を目指すこと。